

美術科の評価の進め方

沖縄県造形教育連盟 中学部

ここでは、生徒の学習状況の「評価」を総括して「評定」に表すための手順を示しています。教師が生徒の学習状況を、時間をかけて丁寧に見取り、成長を期待して「評定」に表したとしても、生徒は、教師が下した単なる学習結果・能力判定（ジャッジ）と受けとめかねません。生徒個々の学習状況に応じた、専門教師による具体的なアドバイス（コーチング）こそが、生徒自身が学びに向かうための「評価」であることを忘れないようにしたいものです。

■ はじめの確認

1 何のために評価するのか。(評価の目的)

- 生徒に、美術科を通して育成する資質・能力を身に付けるさせるため。
(美術科の目標に向かわせるため)

2 何を評価するのか。(評価の対象)

- 生徒に、美術科を通して育成する資質・能力が身に付いているかどうか。(学習状況)
(美術科の目標に向かっているかどうか)

3 何に基づいて評価するのか。(評価の基準)

- 美術科の目標 (各学年の目標) ※「目標に準拠した評価」

4 どのような観点で評価するか(観点別学習状況)

- ○知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に学習に取り組む態度 の3観点
※ 全教科に共通する学習状況の観点です。

5 3観点について、どのような規準で評価するのか。(評価の規準)

- それぞれ、学習指導要領の示す指導内容のまとめりに、指導教師が設定する。

6 いつ評価するのか。(評価の時期)

- まず、日々の授業中に観点を絞って、評価し、記録する。
- 次に、指導する内容のまとめりに、題材(単元)終了時に評定(ABC)にまとめる。
- 最後に、学期(学年)に、評定(ABCと54321)に総括する。

7 どのような様子・場面を評価するのか。(評価する学習の様子・場面)

- 授業中の学習の様子を観察して評価する。
- 表現作品、言語活動の記録など、学習の成果物を吟味して評価する。